

理に意外に多くの時日を要した。

しかし、この間、昭和四十年五月と同四十二年五月に、年表『金沢の百年』上・下二巻を刊行、今回いよいよ通史(上・下)二巻の上梓によつて、この事業を一応完結する運びとなつたことは、時たまたま金沢市制施行八十年の記念すべき年に符節を合することにもなり、喜びに堪えない。

本書の編さんに当り、事業に協賛された市議会、直接関与された編さん委員、多数の執筆者ならびに資料提供等便宜と協力を賜わつた多くの方々に、この機会を以つて厚くお礼を申上げるとともに、業務に従つた諸君の労を多とするものである。おわりながら、事業の進行中不幸他せられた水上一久、八田健一両委員ならびに織田信治前委員の霊に対し、謹んで事業の完結を報告し、ご冥福を祈念する次第である。

昭和四十四年三月

金沢市長 徳田 與吉郎

金沢市史目次

一、市制の動き

第一章 黎明から建設へ明治期

一、市制施行前夜

維新直後の金沢町・区方便条令・七辖区と戸長選挙法・聯町会と区会

二、市制施行

明治十七年の改正・市制施行・金沢市役所・金沢市会

三、初の市長選

市会議員・市長選からまる・稲垣派の対立・長谷川派の対立・血の雨をみた選挙・初代稲垣市長誕生・盈進社の行動の意味するもの(上)(中)(下)

四、民党と吏党の激突

壬辰の選挙大干渉・民党と吏党・石川平野の血煙・市の民心、吏党を離る・三級選と二級選・血の雨降った一級選挙

五、第二代長谷川雄也市長

民党の市役所反撃・稲垣市長の弾劾・武装した稲垣・長谷川市長の誕生

六、市議会の解散

長谷川市長の抱負・日清戦役と市会・明派、暗派の対立・避病院疑獄事件・未曾有の市会解散

七、実業会の進出

市山派・実業会の進出・実業会と市山派の対立・長谷川市長の失脚・第三代市長奥村榮滋・市街宅地租増徴反対運動・提携派と山森派

八、奥村退陣と政友会県支部

家屋税法案の反対・またも勢力争いおこる・立憲政友会石川県支部と本多政以・泥仕合的派閥争・奥村市長の退陣

九、加能倶楽部結成の波紋

市部の独立選挙区・山森と水登の競争・加能倶楽部・加能倶楽部と連合派の妥協・家屋税の問題

一〇、実業協会

いわゆる蒲団事件・渡瀬市長再任をめぐる暗斗・戸水寛人と山森の対戦・実業会から実業協会へ・山森市長の登場

第二章 明暗二相の大正期

一、大正の前夜

明治最後の市会議員選挙・米価あがる・第十一回総選挙

二、大正政変の余波

政友会王国・大正の政変・政治意識の成長・悲劇の人木越中將・護憲運動おこる・中橋横山の対戦・異例の選挙やり直し

三、米騒動

騒動はっ発・騒動の余じん、結末・金沢騒動の特色・対策の実情

四、大正前半期の市政

山森市長・市政の概観・公会堂と街鉄問題・山森の退陣

五、普選のあらし

普選運動・中橋と永井の出会い・中橋、永井の一騎打・落選―来たり・見たり・敗れたり―普選運動のあらまし・西にレーニン、東に原敬・地に咲く一輪の花・金沢の普選運動

六、都市計画

都市問題・都市計画と飯尾市政・相良市長の態度・都市計画法の適用・都市計画区域決定・近郊村の編入・困難な都市問題

七、社会問題

大正デモクラシー・工場法適用をめぐる―無職業者の消長・労働運動・ストライキ・労働対策・社会運動と無産政党

八、自治会の内紛

飯尾市長の退陣・永井と曜道文芸・自治会の内紛・大正期をかえりみて

第三章

昭和期―激動と躍進

一、戦前期―昭和初期―

二七七

水道反対期成同盟・上水道の完成・緊縮財政・中小企業の苦悩・産業と観光の大博覧会
名誉市長・町村合併

二、戦中期―昭和十二年～二〇年―

二四〇

革新団体の消長・右翼の台頭と戦時体制・大政翼賛運動・戦時の市長沢野外茂治・学校
施設の充実

三、戦後期―敗戦から講和発効―

二五三

戦後の混乱・初の市長公選・第二回国民体育大会・市議会リコール・女性議員登場・内
灘の紛争・試射場・問題の再燃・からむ選挙戦・大和、武蔵の決戦・金は一年、土地は
万年

四、大金沢建設をめざして

二七六

大金沢への道・観光行政・徳田市長の登場

〔歴代市長・市議会（市会）議長一覧〕

二、公営事業と施設

第一章 公 営 事 業

二八七

一、ガス事業

二九六

私営時代・市営時代・戦後の拡張

二、上 水 道

二九二

多難だったその誕生・戦後の復興計画

三、下 水 道

三〇一

初期の下水道計画・戦後の下水道

四、金沢市立病院

三〇六

病院の現況・避病院の設立・結核療養施設・無料診療所と施療院・市立金沢病院・金沢
市民病院へ発展・金沢市立総合病院の建設

五、電気事業

三二六

ガス灯とランプ・市営計画と金沢市電気公社・金沢電気瓦斯株式会社・市営電気事業・
電力の国家管理と北陸配電の設立

第二章 大金沢の建設へ

三三三

一、金 沢 港

三三三

金石、大野両港の盛衰・築港計画の概要

二、犀川総合開発

三三三

犀川ダム・ダムの多目的性・上寺津発電所

第三章 公共サービス

三三七

一、住 宅

三三七

大正期から大戦まで・戦後の住宅建設

二、ゴミの処理

戦前のゴミ処理・戦後の清掃事業

三、し尿問題

衛生公社の設立

四、公設市場と中央卸売市場

公設市場・近江町と青草町・中央卸売市場

五、市庁舎と窓口センター

市庁舎

六、観光会館

公会堂・観光会館建つ

七、消防

消防組・金沢消防組の編成・常備消防部・金沢市防護団・金沢市警防団・金沢市消防団・常備消防・戦後

八、金沢市立図書館

開設の経緯と発展

九、保健所

一〇、青少年施設

少年の家・青年の家

三三

三四

三五

三六

三七

三八

三九

四〇

四一

三、産業と経済

第一章 第一次産業

一、明治農業の地理的背景

はじめに・砂丘地帯・北郊の低温地帯・西郊の米作と果樹栽培・南部の乾燥地帯・丘陵山地地帯・旧市街の農作物

二、旧市域の農業の展開

農業戸数の動き・水田化・金沢市農会の設立・明治の農産額・作物の種類と作付反別の動き・明治農業の総決算

三、大正、昭和初期の農業

農家層の動向・昭和五年国勢調査から・農地の所有と経営規模・農産額の推移・昭和初期の近郊・山村の動き・市域の変化と農業

四、戦前と戦後

農業戸数と兼業率・経営規模と自小作関係・農産物・果実と花卉の栽培・農耕の機械化

一一、市営放牧場

一二、と畜場

四二

四三

五、都市化と農業……………	四二九
農地活廢の進行・農家数と兼業率・兼業者の内容について・農業人口・農業地域の特産地化・市農政の輪郭……………	
六、都市農業の曲り角……………	四三九
伸びるものと衰えるもの・斜陽化した果樹栽培・構造改善事業……………	
七、畜産業……………	四四三
明治時代の畜産・牛乳トラスト・大正時代の畜産物の推移・昭和期畜産の傾向・畜産振興の施策について……………	
八、林業……………	四六〇
昭和初期まで・県行造林・戦後の山林面積・山林所有・昭和三十年ごろの林野産物・一九六〇年センサスから・山林の近況・最近の造林事業・製炭とシイタケ栽培……………	
九、水産業……………	四七一
淡水産時代・漁法の種類・沿岸漁業地域の編入・太平洋戦争まで・水産物の推移・戦後の水産業・昭和二十九年漁業のセンサスから・不安定な漁獲高・漁港の近況・底曳網漁業について・水産物の流通……………	
第二章 第二次産業……………	四六三
一、現況の概観……………	四八三
工業の諸特徴・工業立地・商業の諸特徴……………	
二、戦前の全体的沿革……………	五〇〇

市制施行以前・近代の産業の成立……………	
三、近代の産業の確立……………	五二二
第一次大戦の経済的大発展・不況から不況へ・戦争経済のもとで……………	
四、太平洋戦争の沿革……………	五三七
終戦と経済民主化・戦後経済の復興・高度成長のもとで……………	
五、繊維工業……………	五四九
六、機械金属工業……………	五五九
七、特産品工業……………	五六八
八、その他の商工業……………	五九六
食料品工業・化学・木工・印刷・商業経営の大型化……………	
第三章 金融……………	六〇五
一、明治初期の金融情勢……………	六二五
国立銀行と私立銀行の動き・二十四年の恐慌と銀行熱・不発に終わった興業銀行の設立・羽二重相場変動と銀行の倒産・批判をかった鴎池銀行支店・日露戦争と好況・全市的運動となった日銀支店の誘致・金沢手形交換所の開設……………	
二、第一次大戦の好況と資本構成……………	六三〇
銀行条例改正で組織替え・預金争奪で県外銀行支店の進出・貯蓄銀行の合同問題・農工銀行と勸銀の合併・銀行に県が勧告発す……………	

三、昭和初頭の金融恐慌	六五九
横山家一門の悲劇と加州銀行の危機・金解禁をめぐる・うなぎ上りの郵便貯金・深刻な農家の負債	
四、軍拡金融体制へ前進	六七〇
合同は地方経済に悪影響・公債消化と金利の平準化・ふえる同盟操短や休業	
五、一県一行の戦時再編成なる	六七二
県の銀行整理計画・最終的合意となる・無尽、信用組合、証券の整理・強制的な貯蓄運動の展開	
六、戦後処理と安定恐慌	六七三
預金封鎖と緊急措置・県銀行協会の発足・都市銀行の進出で活気・九原則の実施と金詰り・県信用保証協会の発足・金沢市の保証制度きまる・北国銀行の争議・中小企業金融の緊急対策	
七、朝鮮動乱と設備投資	六七六
特需景気の恩恵少なし・活気づく地元金融界・軌道に乗る金融諸制度・まかり通るマチの利殖機関・金融引締め強化で打撃	
八、高度成長経済の新段階	六七七
数量景気のもたらすもの・金融基調の変化・零細企業へ融資対策・伸びる実質所得・好況で貸出盛ん	
九、経済の広域化と金融基調	六八〇
政府系機関との競合・制度金融の実施・激甚法と復興金融・公共的投資と市勢の立場	
新証取法の施行・戦後最高の不渡手形	
第四章 交通、通信、放送、観光	六九七
一、交通の発達	六九七
北陸線の開通と金沢・明治、大正期の近郊交通・市内電車の開通・バス、タクシーの出現・交通機関の発達と街路整備・金沢飛行場・交通の戦時体制・北陸線近代化と金沢・北鉄のもつ諸問題・カーのはんちんと対策	
二、通信と放送	七〇六
郵便と電気通信・放送と電話の近代化	
三、観光事業の歩み	七〇七
兼六園と卯辰山・観光施設のあゆみ・史蹟の保存	